

普及だより

平成18年8月21日 NO21
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦農業改良普及事業推進協議会
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話(直通) 029(822)7242
 (FAX) 029(822)7370

ブルーベリー、イチジクの新産地を目指して かすみがうら市新作物推進協議会の活動



ほ場見回り会の様子 上：定植一年目の園にて 右上：イチジクのハウス栽培

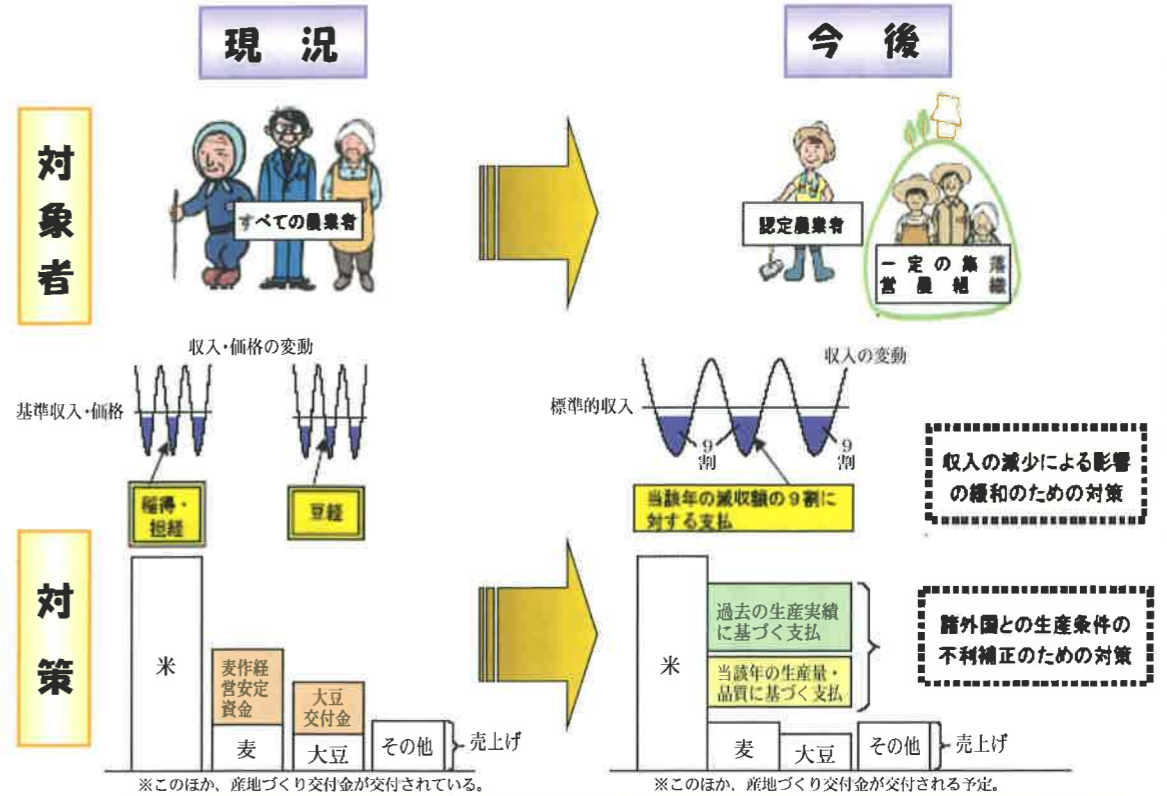
かすみがうら市では、平成一二年から旧霞ヶ浦町において転作の推進と遊休農地対策として、新作物の導入に取り組んできました。かすみがうら市新作物推進協議会(かすみフルーツ組合)を組織し、ブルーベリーとイチジクを中心に栽培しています。

七月三日にブルーベリーとイチジクのほ場見回り研修会を実施しました。九ヶ所のほ場を巡回し、生育、着果、肥培管理の状況等について見回り、今後の管理のポイント等について検討しました。

今年のブルーベリーは、天候不順の影響が心配されましたが、晩生のラビット系の品種で着果が悪いものが見られた他は、生育、果実の糖度もまずまずの状況でした。イチジクは寒さに弱いためハウス栽培が行われており、小さな実をつけ順調に生育していました。

この様な協議会の活動により、千代田地区からも加入者が増え、生産量も増加してくるので、販売体制を確立してブルーベリー、イチジクの新産地を目指して頑張っています。

みんなの力で農業改革を進めよう



〈問い合わせ先〉 農林水産省 茨城農政事務所第2課(土浦庁舎)
 なお、お気軽に、普及センター・市農政主管課・県総合事務所にも
 ご相談下さい。

品目横断的経営安定対策について
 米・麦・大豆への国の助成が変わります。
 平成十九年産から米・麦・大豆の助成は、全農家一律で実施していた価格への助成から、意欲と能力ある担い手に限定した所得対策へ移行します。

平成十八年農業三士認定者紹介

今年度新たに次の方々が県知事から認定を受けました。農業改革推進等地域リーダーとしての活躍が期待されます。

○農業経営士

土浦市 篠原秀夫さん
 レンコン専作で早・中・晩生を組み合わせた大規模経営で、減農薬・減化学肥料栽培に取り組み、環境にやさしい農業を実践しています。
 土浦農協田村蓮根部会の販売対策市場担当をしています。
 石岡市 谷田部貞雄さん
 水稲・麦種子生産を中心に中玉トマトのハウス養液栽培、麦大豆等の転作作業受託及び水稲作業受託を組み合わせた多角経営です。やさしと農協採種部会長と茨城県採種部会長を務めています。

○女性農業士

土浦市 羽成香代子さん
 梨・ブドウを中心に自分の店舗と農協の直売所で販売する直売型経営です。たい肥を使用し美味しい果物づくりに取り組んでいます。家族経営協定を結び、役割分担を明確にした経営を行っています。
 土浦市 柳沢 浩二さん
 有限会社「菜果」として水耕ミツバを主力に雇用を採り入れた大規模経営を行っています。近年露地野菜やブルーベリー等を導入し収益拡大を目指しています。
 かすみがうら市 今井崇博さん
 パラ栽培を中心とした経営で、消費ニーズに合わせ多品種を栽培しています。有機質肥料を主体に環境保全型農業を心掛けています。霞ヶ浦4Hクラブで活動しています。

農業雑誌「農業いばらき」の購読申し込みは普及センターへ

営農 トピックス



イチゴ 定植期の管理

苗の無理な早植えは、草勢が強くなりすぎる原因となりますが、遅れると初期生育が抑制され着果数の減少や収穫開始の遅れに繋がります。頂果房分化を確認したら速やかに本ぼに定植します。

定植後の土の乾燥は生育不良の原因になります。特にとちおとめは根量が少なくチップバーンが出やすいのでこまめな灌水が必要です。定植後は一日数回、少量の灌水で活着を促進させ、活着後もこまめに灌水を行います。常にクローン部が湿っているくらいが適当です。一度に多量の灌水をすると根痛みを起こしやすいので避けて下さい。

九月はまだ外気温が高いので外張りビニルとハウスサイドは開放とし高温にならないよう管理します。保温は一〇月中旬を過ぎてから開始します。保温開始が早すぎると収穫開始は早まりますが、根張りが悪くなり中休みの原因になりますので注意してください。

県育成品種「ひたち姫」



茨城県はイチゴの新品種「ひたち姫」を選抜しました(品種登録出願中)。とちおとめを子房親、章姫を花粉親に交配し作られた品種で、ランナーの発生は非常に良く、果実が軟らかく粒が大きいのが特徴です。今年度は管内で一五名程度が試作しています。

コギク 親株養成



コギクは、出荷が忙しい時期ですが、すでに来年のコギク作りはスタートしています。健全な親株の選抜と適切な管理による苗づくりに、来年の作付けの成功のためにも重要な作業です。

◆親株の選抜と伏せ込み
生育が良好で病害虫(特にさび病・わい化病、キクモンサビダニ等に注意)の被害がなく、花色が良い株を確保(切花時に充分チェックしておく)します。
八〜一〇月出荷栽培では、一〇

コギク栽培暦

作型\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
8月咲			▽	◎				■		▲		∩
9月咲		*	▽	◎				■		▲		∩
10月咲			*	▽	◎			■		▲		∩

▲伏込み *親株ピンチ ▽挿し芽 ◎定植 ∩=保温

◆親株の管理(春植え栽培)
一・二月中旬までは十分に自然の低温にあて、その後ビニール等で保温し越冬します。
親株育成中は日中の気温が二五℃以上にならないよう、晴天日は換気を十分行います。また床の過湿や過乾燥に注意し、軟弱徒長とならないようにします。病害虫の防除も徹底します。

農業の楽しさ、食と農のつながりを伝えたい



土浦地域女性農業士会では、食農教育の一環として毎年ふれあい農業体験交流会を実施しています。今年は、茨城県道心園の子ども達とさつまいもと落花生の栽培を行います。
去る六月三日には、落花生の種蒔きとさつまいもの移植を行いました。女性農業士から「落花生の種は芽が出やすいようにこう持つて蒔いて。」「さつまいもは斜めに節三つまで植えてね。」といった指導を受け、子ども達は苗を植えるために斜めに刺せるよう枯れ枝を棒代わりにするなど工夫しながら積極的に取り組んでいました。今後、除草、収穫と体験を重ねていく予定です。
作物を育てることで、食べるこ

とと農業との関わりを理解し、農業の大切さを肌で感じてもらえたらと考えています。

「農業学園」開講式開催される



六月七日に平成一八年度農業学園開講式を開催し、本年度の農業学園がスタートしました。
開講式では石岡市で水稲、麦の種子生産や作業受託を中心とした経営をしている谷田部貞雄氏から「私の農業経営と若い農業者に期待すること」と題した講演をいただきました。
自らの体験談を交えながらの講演に学園生からは、親とのコミュニケーションの取り方や雇用の場合の心にかけていることなど次々と質問が出され、今後農業をしていくためのヒントを得ることができたようでした。
その後、年間計画や講座内容に関して経営類型毎のグループに分かれて情報交換を行いました。
今後、講座に対する要望等を参考に開催していく予定です。

「筑波地鶏」の生産拡大へ



平成一五年に県畜産センターとJAやさと、民間種鶏場で「筑波地鶏」を作出しました。肉質は歯ごたえの中に柔らかくジューシーな味わいのある鶏肉です。
「筑波地鶏」の生産を始める方には、JAやさとがヒナの導入から購買や鶏舎の衛生管理、肉鶏の出荷まで指導します。最小飼養規模は二四坪の鶏舎で、八〇〇羽、約九〇日間、年三回飼養が目安になります。鶏舎はパイプハウスで作ることが出来ます。八郷地区以外に居住している方も生産は可能です。
詳細については、普及センターかJAやさと産直課(〇二九九一四六一八一五)までお問い合わせください。



土浦市・かすみがつら市 フレッシュ!いきいき園芸大会 開催される



七月四日、土浦京成ホテルにおいてJA土浦主催による銘柄産地指定記念「フレッシュ!いきいき園芸大会」が開催されました。橋本県知事を迎え、生産者・関係機関・市場関係者等約三百六十名が参加しました。
平成十七年度銘柄産地指定を受けた土浦市のレンコンとかすみがつら市のナシ部会に対し、橋本知事から指定証の交付が行われました。
宮本理事長からこれを機に園芸全体の活性化につなげていきたいと挨拶がありました。
その後の祝賀会では蓮根部会女性部のれんこん料理の紹介や、ちびっ子達による郷土芸能の大杉囃子の演奏で大会を盛り上げました。

石岡市 親子でジャムづくり挑戦!



また、キャラバン隊

YACは旧八郷町の若い農業後継者一七名で構成されたクラブです。過日、親子農業体験ふれあい交流会として、親子(小学生・幼稚園生)七組を対象にイチゴジャムづくりを行いました。イチゴは子供達が収穫し、ジャムづくりはクラブ員が指導しました。できたジャムはさっそくパンにつけて試食しましたが、子供達からは「お店で売っているジャムよりおいしい!」という声がありました。

普及だより

平成19年3月6日 NO22
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦農業改良普及事業推進協議会
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話(直通) 029(822)7242
 (FAX) 029(822)7370

「ひたち紅っこ」で赤ネギの特産地づくり

茨城県育成品種の導入



左上；ほ場の様子 左下；赤色が鮮やかな「ひたち紅っこ」 右；収穫出荷作業

葉鞘部が赤から赤紫色に発色する赤ネギは本県の地方野菜の一つです。色の鮮やかさと葉鞘の軟らかさ、加熱したときの甘みが特徴です。茨城県園芸研究所で育成された赤ネギ新品種「ひたち紅っこ」は従来種に比べ赤色の発色が優れており、葉鞘も太くボリュームのある品種です。

石岡市のひたち野農協赤ネギ部会は「ひたち紅っこ」を約一、四畝栽培している県内一の産地です。出荷の際には発色がきれいに見えるよう泥の付いた薄皮を手作業で剥がすので生産者の手間は大変なものです。しかしその甲斐もあり市場と消費者からは赤色が鮮やかだ、軟らかくておいしいと良い評価を得ています。

3月に入ると次作の種まきが始まりです。消費者に喜ばれるひたち紅っこづくりに向け、そして赤ネギ産地として発展するよう頑張っています。

みんなの力で農業改革を進めよう

レシコンの市場・消費動向調査から

市場調査結果から

過日JA土浦産レシコンの市場評価について主要出荷市場調査を行いましたので、概要についてお知らせします(調査市場：京浜地区六社、県外地方二社、県内二社)。

○品質・規格について
 規格(AM)の見直し、品質の個人差の解消(品種統一等)の指摘がありました。目揃え会等でも注意を受けていますが、今後も選別の徹底を図り個人差を無くしていく必要があります。

○出荷形態・産地加工について
 現状の4kg平箱で問題ないとの意見が多く、産地加工(真空パック等)についてはやって欲しいという要望がある反面、価格の上乗せはできない、産地での対応は難しいのでは?等の意見も聞かれました。支部によっては現在でも市場により泥バスや袋詰め等の対応をしており、今後も要望に合わせて契約取引等に対応していくことが、消費拡大、生産者の収入安定にもつながり重要であると思われま

○出荷情報について
 天候や価格により出荷量の変動することがあり情報通りの出荷量を望む声が多く聞かれました。ま

た、一定期間内(一年、一週間)でメリハリをつけた出荷をして欲しいという意見もありました。市場担当者との連絡を密にし、欲しい時に欲しい量を計画的に出すことが重要となります。契約取引の拡大も経営安定化を図る上で重要です。

消費宣伝等について

消費宣伝については、どの市場から要望は強く、継続して欲しいとの意見が多く聞かれました。また、京浜地区では核家族化や惣菜等加工食品の需要増加に伴い、個人消費が停滞しており、今後、消費拡大のための提案(一次加工品等)が必要との意見もありました。一方地方市場で特に出荷量の多い静岡や長野は、地域の背景や市場・量販店等の努力(売り場面積が広い)もありレシコンの消費量が、今後伸びる可能性を秘めていると感じました。

今後京浜地区にこだわることなく、消費が伸びる可能性を秘めた地方市場をターゲットにマーケティングを進めていくことも重要だと思われま

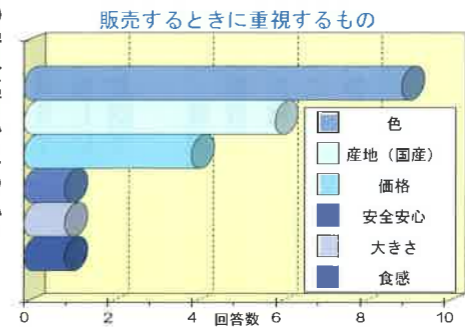


販売状況(長野)

量販店アンケートから

一月下旬にJA土浦と、量販店を対象にアンケート調査を実施した結果の概要をお知らせします。

○販売時に重視するもの
 色が一位で産地・価格と続きました。

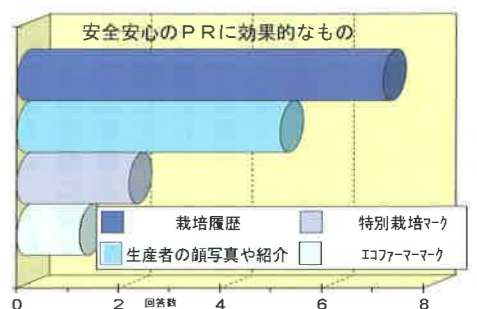


安全安心について

安全安心をPRするのに効果的なものは、栽培履歴、顔写真や産地紹介であるとの意見が多く出ました。

調査前は特別栽培マークやエコファーマーマークがPRになると考えていましたが、これらについては、「今はどこでも当たり前になっている」、「店員が内容を説明で

ただし、レシコンの表面の色については無漂白と理解されるようになってきましたが、穴の中が黒いというイメージが強いので、一番多く



その他

販売促進で効果的なのは、生産者による試食宣伝販売だということです。「実際に作っている人の豊富な知識や愛情が最大の宣伝になります」という意見がありました。消費者が年末はこの店で買おうか決める時期なので、実施時期は十一月頃が良く、品質や鮮度にさらに気を遣う必要があります。

また、販売する立場では、できればダンボールの金具をなくしてほしいとの意見がありました。

クレームがないから何もしなくてもよいというのではなく、販売する人、食べる人の気持ちになっ

きない」、「袋詰め時に間違えたら困る」等の意見が聞かれました。そのため大手量販店では各社で取り決めた生産基準を満たしたプライベートブランドでの販売を重要視しています。

農業雑誌「農業いばらき」の購読申し込みは普及センターへ



稲の健本作りの管理

大粒コシヒカリを目指し、五月五日以降に田植えをしましょう。



表のとおりです。出芽が揃い、葉鞘の長さが1cm程度なったら緑化を開始します。緑化期間は寒冷紗や遮光フィルムなどで遮光し、強い光を当てないよう管理します。緑化・硬化期にかけては水のかけ過ぎによる立枯れ病の発生が多く見られます。高温多湿で発生しやすいので、朝早めにハウスの換気を行い、かん水は夕方表面がやや乾く程度します。

	処理日数	昼間温度	夜間温度	かん水の目安
出芽期	は種後4~5日	30~32℃	15℃以上	かん水はしない
緑化期	出芽期後2~3日	20~25℃	15~20℃	床土表面が乾いたら
硬化期	緑化期後10~14日	20~25℃	10℃以上	前半:1~2日に1回 後半:1日に1~2回

夜の晩霜対策は何か

● 晩霜の予測

午後六時の気温が七〜八℃、午後九時の気温が四〜五℃のときは翌朝マイナス〜二℃になる危険性が高くなります。

テレビ、ラジオ、電話(一七七)の情報を活用しましょう。

● 晩霜対策

防霜ファン：気温の高い位置の空気を圃場内に送り込むことにより気温が上昇する。昇温効果は二℃

程度。設置費は一〇万円当たり約五〇万円。その他電気料がかかる。スプリングロー：植物体に散水し、これが氷結する凝固熱により植物が冷却するのを防ぐ。外気温がマイナス七〜八℃でも植物体を〇℃に保つことができる。設置費は井戸を除き一〇〜二〇万円。多目的防災網：九ミリの被覆により棚面が約〇・四〜〇・七℃の昇温効果がある。設置費は六〇〜七〇万円。七〇万円。燃焼資材：資材の特性を十分理解して利用する。点火時刻は夜の冷え方、種類、ステーションにより異なるので危険温度以下にならないようにする。

● 主な燃焼資材の種類と概要

燃焼資材(商品名)	材料・重量	燃焼時間	火点数	ばい煙	燃焼状況・その他
ランタン	練炭1.35kg	3~4	50~70	なし	針金で棚面から60cmくらいの位置につす。他の資材と比べると火力が弱い。点火剤リングを下向きにしてつす。
シモカット(大輪)	オカグズ+灯油または重油	1~2	50~60	少ない	4~5m間隔で使用。着火には灯油が必要。重油は多火勢の管理が必要。
デュラフレーム	木粉+パラフィン	3	30~42	少ない	着火が容易(灯油不要)。長期保存が可能。無風状態で約3時間30分燃焼する。

土浦市

さんふれ「はすの里」オープン
二月一日、JA土浦農産物直売所「サンフレッシュはすの里」が木田余にオープンしました。



農作業の事故を防止しよう

かすがうら市

気持ちは一つ高品質コギク産地へ
JA土浦小菊統一出荷部会では、部会員一四名で五〜十一月咲のコギクを生産しています。

平成一八年度は更に選花・選別を徹底し品質を高めようというこゝとで先進地研修や部会での話し合いを重ねた結果、切前、フォーメーション、病害虫等選花選別基準

土浦地域農村青少年プロジェクト実績発表会開催される

一月十九日、二月の県プロジェクト発表会に向け、土浦地域での発表会を開催しました。

土浦市の萩原文宏さんは『水稻「疎植栽培」導入の効果と課題』についてのプロジェクト発表、同市萩島一朗さんは『私の一年戦争』と題した意見発表を行いました。二人とも堂々とした発表で、試行錯誤の過程や熱意が伝わってきました。発表後に助言者や会場から多くのアドバイスを受け、県での発表に向け一層気持ちは高まったようでした。

また、女性農業士海外研修報告として、石岡市の鶴井靖子さん、土浦市の羽成香代子さんから、ヨ

ロップでの研修について多くの写真や交え、新鮮な感動を伝えて頂きました。



土浦地域農業者フォーラム開催される

去る二月六日、霞ヶ浦環境科学センターにおいて元気アップ集団代表者を始め農業三士、女性組織等約七〇名が参加し、平成一八年度土浦地域農業者フォーラムを開催しました。



フォーラムは、①食と農の元気アップをめざして「食育の分野から考えるこれからの茨城農業」、②茨城農業改革推進と県内の動き、③ひとの元気アップをめざして「いばらき農山漁村男女共同参画推進ビジョンが目指すもの」の内容で行われました。

初めに、管理栄養士であり食育料理研究者でもある(有)あいね代表取締役 相澤菜穂子さんに講演を頂きました。今なぜ食育が必要なのか、食育の柱としては①自分の健康を守る食を選ぶ力をつけてほしい食習慣をつける(情報)②食べ物がどのようにできるかを知り、大切にすることを育てる(体



また、茨城農業改革の動きからは、農業者自らを取り組む「元気アップ作戦」が着実に成果を上げていること、いばらき農山漁村男女共同参画ビジョンが新たに二二年に向けて策定されたことが報告されました。

食育では、学校給食や地産地消等が、農業改革では米の現状と対応等について活発な意見交換が行われ、今後の茨城農業のあり方として視点を変えたフォーラムとなりました。



高品質コギク産地を整える事が決まりました。

高品質コギク産地を、目指し、気持ちを一に次作へ向けた栽培がスタートしました。



高品質コギク産地を、目指し、気持ちを一に次作へ向けた栽培がスタートしました。

石岡市 アレンジアスターを中心とした施設切花産地を目指して

JAひたち野花き部会では、四名の生産者がパイプハウス(六〇坪)を新規導入し、アレンジメントアスターの生産に取り組んでいます。今年で二年目となり作柄は少しずつ安定してきました。また連作障害対策としてチドリソウやキンギソウの栽培にも挑戦しています。



農業は正しく使いましょう

普及だより

平成19年8月10日 NO23
 土浦地域農業改良普及センター
 土浦農業改良普及事業推進協議会
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F
 土浦市真鍋5-17-26
 電話(直通) 029(822)7242
 (FAX) 029(822)7370



地域農業の担い手応援します



上左：農業学園の病虫害防除の講義。上右：担い手担当者会議の様子。下左：農村女性大学による農業ふれあい体験の様子。

農業分野における担い手不足に対応するため、普及センターでは関係機関と連携し、青少年、女性農業者、定年帰農などを対象に農業担い手の確保・育成に力を入れています。

若い農業者や中核的な女性農業者を中心に技術や経営についての講義や先進地視察、仲間作りを行う「農業学園」「農村女性大学」開催、課題解決への取り組みや消費者交流など自主活動を行う「4Hクラブ」支援、食育活動等将来の後継者確保活動を行う「女性農業者の経営改善や新規参入者の就業相談も行っていきます。数字の上での確保だけではなく地域を支える農業者となるように、それぞれに適した内容で進めています。

地域農業の担い手はこれからの農業を支える大切な存在です。普及センターはこれからも農業者の育成に力を入れていきます。

みんなの力で農業改革を進めよう

あなたも、認定農業者になろう!

これからは、認定農業者や一定の要件を満たす集落営農組織に対して、国の支援は集中的、重点的に実施されていきます。

今後、農業経営のスペシャリストとしてがんばっていきましょう。あなたも、認定農業者になってみませんか。

認定農業者になるとどんなメリットがあるの?

メリットはたくさんありますが、その一部について紹介します。

経営改善に向けた支援

「担い手育成総合支援協議会」が、認定農業者を対象とした経営の相談・指導や経営診断等によりバックアップします。

資金の融資

・スーパーL資金、農業近代化資金が無利子で借りられます。(ただし平成一九年度から三年間に借り受け、五〇〇万円超の資金が対象)

規模拡大を支援

・農業委員会がおこなう農地のあっせん事業対象者は、認定農業者を優先することになっています。

農業者年金保険料の助成

税制の特例

・機械、施設等の減価償却費を割増計上

経営安定対策の対象

・米、麦、大豆等の対策である品目横断的経営安定対策の対象者は認定農業者又は一定の要件を満たす集落営農組織であることが必須条件です。

認定農業者になるにはどうしたらいいの?

・認定農業者になろうとする方は、まず、経営改善に関する五年後の目標とその達成に向けた方策を内容とする「農業経営改善計画」を作成し、市町村へ提出します。

市町村は、計画内容が認定基準を満たしている場合に、計画の認定を行います。計画の認定を受けた農業者を認定農業者と呼びます。

※農業経営改善計画の内容

- ・農業経営の現状
- ・農業経営の改善目標
- ・目標達成のための措置

※市町村の認定基準

- ・基本構想に照らして適当なものを
- ・農用地の効率的かつ総合的利用を図るために適切なものであること

と

・計画の達成される見込みが現実であること。

●経営改善計画の申請、認定時期

基本構想の内容は市町村によって異なりますので、お住まいの市町村にお問い合わせ下さい。

平成十九年度 農業経営士等新たに五名が認定

今年度新たに次の方々が県知事から認定を受けました。農業改革推進など、地域リーダーとしての活躍が期待されます。

また、女性農業者の今泉みつ子さん(土浦市)、青年農業者の塚崎英夫氏(土浦市)が退任となりました。ご苦労様でした。

農業経営士

土浦市 小野 輝男 氏



梨專業経営で、剪定時に雇用を入れて労力を確保し、高い技術で収

量向上に取り組むなど、地域のリーダーとして実践しています。土浦農協新治梨部会に所属し、エコファーマーの認定も受けています。

石岡市 友部 敏英 氏



梨專業経営で、ハウス栽培と露地栽培の組合せで、収穫期間の拡大を図っています。やささと農協梨部会に所属するとともに、八郷梨経営研究会の代表も務め、新品種や新規果樹を導入することで、果

樹経営の活性化を目指しています

女性農業者

石岡市 高橋 美和 さん



葉たばこを中心に、露地野菜も導入して労力の分散と経営の安定を図っています。農村女性大学修了生で組織化した「みどり会」で活動するなど、地域活動にも頑張っています。

青年農業者

石岡市 潮田 陽一 氏



養豚一貫経営で、繁殖成績の向上を目指しての人工受精や、子豚の事故率低減に取り組んでいます。産性向上に努めています。

の事故率低減に取り組んでいます。産性向上に努めています。YACの仲間とともに、地域農業の活性化に向けて頑張っています。

石岡市 野村 大 氏



高設養液栽培でイチゴを栽培し、長期間収穫する観光イチゴ園を営んでいます。両親とは別に経営を開始し、YACの仲間とともに、地域のモデルとなるよう頑張っています。

農業雑誌「農業いばらき」の購読申し込みは普及センターへ



水稲・麦

水稲の出穂後の管理から乾燥・調整まで

出穂期以降は、根の活力維持と乳白粒発生軽減のため、田面に水が残っていないものの触ると湿り気を感じる程度で入水し自然落水する間断かんがいを続け、出穂期三〇日以降に落水しましょう。水稲の収穫適期は、青味を帯びた籾の割合が一〇〜五%の頃、出穂期後四〇〜四五日が目安です。収穫後の乾燥は、胴割れ米発生を避けるため穀温四〇℃以下、毎時乾燥率〇・七〜〇・八五%で乾燥し、籾水分一四・五〜一五%の時に停止します。大粒の米に仕上げるため、グレーダーの編み目は一・八五mm以上で調整しましょう。

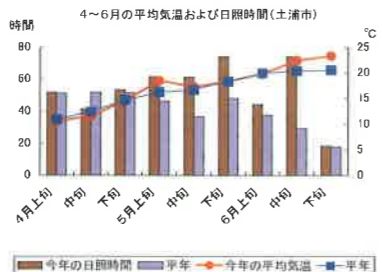
小麦の播種について

水田転換畑では、暗渠の施工、排水溝の設置などによる排水対策が必要です。PHが五・五〜六・〇になるように石灰資材により酸度矯正を行います。施肥量の目安は、別表のとおり。追肥は、砂壤土では、二月下旬と三月下旬の二回、その他は二月下旬または三月上旬の一回行います。種子更新は、毎年行いましょう。播種適期は、小麦は一月一〜一〇日、

ムスカビ

ムスカビの生育状況と今後の管理について

①定植後の気象状況と生育 今年の定植期から生育初期の気温は平年並くやや高く推移しており、日照も五月上旬から六月中旬にかけて平年値を大きく上回りました。このため生育は順調です。止葉発生後に追肥を行うことによりムスカビの肥大が良くなり、病斑病の予防



②褐斑病の予防 昨年は谷津田、床立ちほ場で発生、強風により胞子が飛散し広範囲に蔓延しました。病原菌は罹病茎葉で越冬するので、昨年発生したほ場やハウス周辺ほ場では特に注意し、早期発見・早期防除に努めましょう。

カラ刈りのめやす

カラ刈りは地下茎への空気の供給を遮断し、赤渋抜くために行う大切な作業です。九月収穫は七日前、十月収穫は二〇日前、十一月以降収穫の場合は三〇日前をめやすに行ってください。

コゴウ

次年度に向け栽培管理



●ハウスの準備 連作地では、土づくりを兼ねて八〜九月の気温の高い時期に太陽熱土壌消毒を行います。①一〇ルア当り一ジのフスマ(米ぬか)をハウス内に散布し、二〇cmの深さまで二回以上混和します。②かん水チューブを六〇cm間隔に下向きに設置して透明フィルムで被覆し、表面に水が浮いてくるまで十分にかん水します。③二〇日間程度ハウスを密閉し、数日後に「トブ臭」がしてくることを確認します。④消毒が終了したら、十分耕耘し、

Two tables showing fertilizer application rates (kg/10a) for soil types (普通土, 腐植土) and crop types (小麦, 六条大麦). The tables list N, P2O5, and K2O requirements for base and top-dressing.

農業はおもしろい 食と農はつながっている

女性農業士会

ふれあい農業体験交流会を開催 土浦地域女性農業士会では、食農教育の一環として毎年ふれあい農業体験交流会を実施しています。今年も、道心園の子ども達とトウモロコシの栽培を行います。

去る六月二日には、トウモロコシの種蒔きとトマトやナス、オクラなど夏野菜の苗植えを行いました。女性農業士の「トウモロコシの種は一粒づつ蒔く?それとも二粒づつ?」の問いかけに「一粒!!!」と大きな声を上げ、あつという間に種まきを終わらせました。去年の収穫体験の時に「来年はトウモロコシがいい!!!」とリクエストされ、それに応えた今年の農業体験ですが、作物を育てることで、食べることと農業との関わり、慈しむ心、農業の大切さを理解してほしいと考えています。

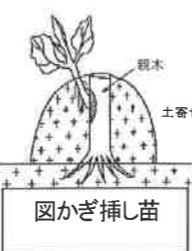
たい肥を使った施肥設計ができる「たい肥ナビ!」の紹介

家畜ふんたい肥を使って畑への施肥量を決めるには、畜種・成分ごとに肥料としての効き目が異なるため複雑な計算が必要です。

三〜四日空けたら栽培可能です。消毒後はフスマ(米ぬか)の肥料成分が残るので土壌診断後に適正な施肥管理をしましょう。 ●親株の選抜 花色が鮮明で品種の特性をとらえており、病害虫に侵されていない株を選びます。表に示した時期に親株を地際から五cm程度のところで台刈りし、側枝が伸長してきたら側枝基部へ土寄せを行い新根の発根を促します。 台刈りが遅れ二番花を咲かせる株の老化が著しいので気をつけましょう。

Table showing main work periods for different crop types: 台刈り, 土寄せ, 仮植・定植. It lists sowing and cutting dates from June to October.

●かぎ挿し 新根が発生したら、図の様に親木をかぎ取ってハウス又は露地に定植します。定植が遅れると、低温のため活着が遅れるので早めの定植が肝心です。親株養成中はハウスの場合二五℃以上にならないように十分に換気を行い、病害虫の防除を徹底しましょう。



そこで茨城県畜産センターではマイクロソフト社のエクセルを使って簡単に計算できる「たい肥ナビ!」という施肥設計システムを開発しました。 一般的にたい肥に含まれる肥料成分は化学肥料とは異なり有機態の肥料成分が多く、微生物によって少しずつ分解されるので、化学肥料よりも効き目はゆるやかです。 なお、たい肥の肥料としての効果は土壌条件、連用年数、栽培期間によって変わりますので作物の生育状況を観察しながら追肥量を調節してください。

「たい肥ナビ!」の利用については茨城県畜産センターのホームページに掲載してありますので、ダウンロードしてご利用ください。使い方も同じ所にあります。詳しくお知りになりたいときや分からないことについては普及センターまでお気軽にお気軽にお問い合わせください。



「たい肥ナビ!」の画面

土浦市 そばのオーナー募集で消費者と交流図る

土浦市農産物オーナー推進協議会は以前から新治村が取り組んでいた「そばのオーナー制度」を昨年七月に新たに設立しました。平成一九年度は一区画六〇mを五四区画募集し、種まきの集いやそばの花見の集い、収穫の集いのイベントやそば打ち体験教室、など栽培から食卓までの一貫した行事が組まれていきます。また、収穫したそば粉も配布を予定しています。今年の体験作業は八月二六日の種まきから応募された人々たちによる「そばオーナー体験」が開始されます。

かすみがうら市 農業後継者連絡協議会移動総会開催される

六月二九日、かすみがうら市農業後継者連絡協議会の移動総会が開催されました。協議会は若手農業後継者グループである霞ヶ浦4Hクラブ、女性農業者グループのフレッシュミセスとひまわり会、かすみがうら湖畔毎出荷組合の四つの組織で構成され、毎年共同で直売活動などを行っています。総

石岡市

六月六日、石岡市八郷地区において、有機栽培による野菜類等の現地研究会が開催されました。八郷地区で有機栽培に取り組むJAやさと有機栽培部会や中央農業総合研究センター、日本有機農業学会等の関係者が集い、熱心に検討、意見交換を行いました。八郷地区は、県内でも有数の有機栽培の農業者が揃っており、野菜類等の安定生産を目指しております。品目は多岐にわたる、約五〇種類の野菜類を栽培する生産者もおります。特徴として、連作を避けること、種子は形質の良いものを自家採種していること、良質な堆肥を施用していることがあげられます。このような栽培工夫が永年にわたり、有機栽培を可能にしている原動力となっております。



普及だより

平成20年3月19日 NO24
土浦地域農業改良普及センター
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話(直通) 029(822)7242
(FAX) 029(822)7370

買ってもらえるものづくりに取り組みましょう!



上: 土浦地域農業改革推進研修会
左: グラジオラス新品種「プリンセスサマーイエロー」



さらなる経営安定に向けて、県オリジナル品種や新規作物の導入、地域オリジナル米や加工による新商品の開発など、「新たな買ってもらえるものづくり」にみんなで取り組んでいきましょう。

茨城農業改革では、今までの「つくれば売れる」から、消費者ニーズを踏まえた「喜んで食べてもらえるものづくり」への意識改革を進めています。
そこで、今年度、管内の各関係機関が一体となって、農業改革のキーワードである「品質・単収アップ」に、「産出量アップ」を加えた新たな買ってもらえるものづくりによる農家経営の安定、所得向上を図るため、「新たな買ってもらえるものづくり推進会議」を立ち上げました。今年度は、「他産地にはないものづくり」をテーマに、新しい品種、新しい品目、新しい作型、新しい技術等の新たなものづくりを推進していきます。

みんなの力で農業改革を進めよう

エコファーマーの認定を受けましょう!

近年、化学肥料・化学農薬の多用により生じる環境汚染や農地の生産力低下が大きな問題となっています。そのため、環境に配慮しつつ農地の生産力を維持・推進する農業を行う意義は非常に高まっています。このような農業に取り組むため、国の法律に基づいて「持続性の高い農業生産方式」の導入計画を作り、県知事の認定を受けた農業者が「エコファーマー」です。「持続性の高い農業生産方式」とは、

- ① 土づくり(二種類)
- ② 化学肥料低減(三種類)
- ③ 化学農薬低減(二種類)

の三つの技術を一体的に取り組むものです。

エコファーマーは平成一二年から始まった取り組みで、管内では、平成一九年一二月現在、三七〇名が認定を受けています。品目では、ナシを中心とした果樹類、キュウリ等の野菜での取り組みが多く、個人での取り組みの他、生産部単位での取り組みが増えています。

エコファーマーマーク



本年度から、レンコンと水稻の畦畔除草が化学農薬低減技術の機械除草として認められ、この二品目についてはこれまでより認定が受けやすくなりました。
レンコンは、霞ヶ浦流域での栽培が大半で、霞ヶ浦の環境問題に関する話題にも取り上げられることが多く、環境に対する積極的な取り組みが求められています。現状でも肥効調節型肥料の施用や、堆肥の施用を行っている方が多く、認定を受ける取り組みがすでに行われていると思われれます。今後エコファーマーの認定を生産部単位で受け、取り組みを更にすすめていくことで、環境にやさしいレンコン産地をアピールしていきましょう。
エコファーマーについての詳細は普及センターまでご相談下さい。

土浦地域青少年プロジェクト実績発表会を開催

一月六日、土浦合同庁舎で地域の農業青少年をはじめ関係機関三〇余名が集まり、土浦地域農村青少年プロジェクト実績発表会を開催しました。

プロジェクト発表 石岡市の後継者クラブYAC(ヤサトアグリカルチャークラブ)の菊地勇氏から「トルコギキョウの生育障害回避について」発表がありました。還元型太陽熱土壌消毒を導入したことで、薬剤処理よりも低コストで安全に生育障害を回避でき、経営が向上する見込みであるとのことでした。

意見発表 土浦市の大塚忠司氏からは、「人生を変えたもの」という題で意見発表がありました。農業の世界に思い切って入った後の苦労や一時の挫折を乗り越え、家族と共に過ごせる素晴らしい農業生活を手に入れたとの発表でした。土浦市の久松達央氏からは「後継ばかりが農じゃない」との題で意見発表がありました。一人で農業を行うことの考え方やそのために苦労したこと、新規参入による小規模農業への行政支援に対する意見など、久松氏が考えるこれからの農業の形がよく伝わってきました。

海外研修事例発表 やさとブル

「やさとブル」の杉中功一氏からドイツとオランダでの研修について多くの写真を交えて紹介していただき、貴重な体験から得られたものを発表していただきました。



農業学園新規講座生募集!

普及センターでは、農業を始めて間もない方を対象に農業学園を開催しています。農業の基礎的な知識や技術を身につけることを目的とした基礎講座と、経営類型別に専門技術を学ぶ専門講座があります。受講希望の方は普及センターまでご連絡下さい。

農業雑誌「農業いばらき」の購読申し込みは普及センターへ

宮農 トピックス 消費者ニーズに あった梨生産を

ナシの新品種「あきづき」は、果実品質の良さから注目されていますが、県でも、高樹齢化した豊水に変わる品種として有望視し導入を薦めています。

ここでは、その特性と、市場関係者や消費者に対するアンケート調査の結果をご紹介します。買ってみたいと思いませんか？

●ナシ新品種「あきづき」

「あきづき」は、農業食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成され、平成一三年に品種登録されました。外観と果実品質が優れていることから注目されています。県内の収穫期は九月中旬下旬で、「豊水」と「新高」の間に収穫される赤ナシです。果実重は五〇〇g前後で、「豊水」より大きく、「新高」より小玉です。肉質はち密で、糖度は一二〜一三%、酸味が強くないので食べやすい品種です。

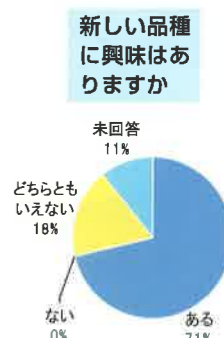
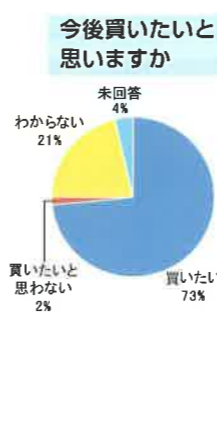
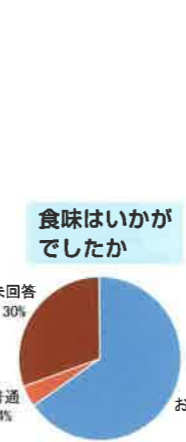
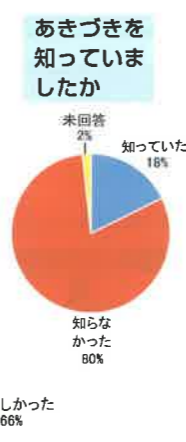
●消費者アンケート結果から

アンケート調査はかすみがうら市と土浦市の直売所で実施し、「あ

きづき」の認知度、食味、将来性等を伺いました。

「あきづき」については、八〇%の方が知らなかったと答えました。試食では、おいしいと答えた方が六割以上で、甘味があった(二二%)、シャリ感があった(一八%)、ジューシー感があった(一三%)といった声が多く聞かれました(複数回答)。「今後買いたいかどうか」では、七〇%以上の方が買いたいと答えました。

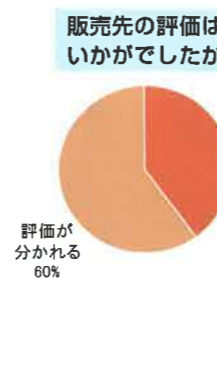
また、「新しい品種に興味があるかどうか」では、七一%の方が興味あると答え、新品種に対する関心の高さが伺えました。



●卸・仲卸アンケート結果から

(回答:五社)

食味については、六〇%の方がおいしかったと答えました。シャリ感や甘味があったこと、甘酸のバランスが良かったこと等が理由でした。一方、販売先における「あきづき」の評価については、六〇%の方が「まだわからない」と答えました。内訳を見てみると、「まだわからない」との回答は地方で多く、東京や大阪では取り扱いを増やしていきたいという回答でした。



●量販店アンケート結果から

(回答:五社)

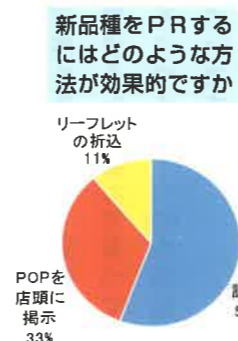
食味と将来性に関しては、前述の卸・仲卸の調査と同様の結果でしたが、食味が悪く、将来性もないと回答した量販店も一社あり、適期収穫を徹底する必要があります。

●収穫時期について

「あきづき」は、収穫が早すぎるとデンブン臭が残る、遅すぎると果肉が軟らかくなって食味が低下します。県では、あきづき収穫適期判定用のカラーチャートを作成しました。カラーチャートを利用して適期収穫を心がけましょう。

●PRの方法について

卸・仲卸・量販店の担当者には新品種の効果的なPR法を伺ったところ、試食、POPの掲示、リーフレットの折込、の順で効果が高いとの回答を得ました。消費者は新品種に対する関心が高いため、試食やPOPの掲示などで大いにPRすると良いと思います。



環境に配慮した、消費者ニーズにあったレンコン生産を

土浦地域は全国一の生産地ですが、霞ヶ浦に隣接しているため、環境に配慮した生産が求められています。また、消費者からは「安心・安全」な農産物が求められています。このようなことから、「環境にやさしい農業」に地域ぐるみで積極的に取り組みましょう。

●施肥について

肥効が穏やかで追肥の必要がなく、チッソの溶脱が少ない有機質肥料主体の施肥としましょう。表は特別栽培に取り組んでいるAさんの施肥例です。最近是有機栽培や特別栽培に対応した肥料が販売されています。詳しくは普及センターにお問い合わせください。

A氏の施肥例
元肥:有機農産物適合肥料 [N:P:K=6:8:4、有機100%] 200Kg/10a
追肥:なし
収量:1,984Kg/10a (12月収穫) AM率69.0%
品種:金澄34号

【花き新品種紹介】

茨城県で育成し、平成一九年に出版公表されたグラジオラスとコギク新品種を紹介いたします。

●グラジオラス「常陸あけぼの」

極早生品種で播種後六〇〜七〇日で開花します。花色は和を感じさせる淡い色合いです。昨年、普及センターで実施した市場性調査では促成(春出)



●コギク「常陸サマーレモン」

頂点咲きで、茎葉のバランスに優れており、花色は従来のコギクに無いレモン色で花束加工等の需要が見込まれます。7月咲き露地栽培8月咲き電照栽培に向く品種です。



買ってもらえる米づくりを

●コシヒカリ高品質米生産のために 苗作り 品種特性を備えた信頼出来る購入種子を使いましょう。

一〇〜一五℃の水で積算温度二二〇℃を目標に浸種し銚色になったら、二八〜三〇℃で一五〜二〇時間加温し催芽させます。三二℃をこえると病害が発生しやすいので注意しましょう。ハトムネ状態になり1mm程度芽が出たら播種し、表1のとおり温度・水管理に注意して出芽、緑化、硬化を行います。

表1 育苗期間の管理
時期 日数 生育段階 温度管理 水管理
出芽期 2~3日 鞘葉長1cmまで 28~30℃ かん水しない
緑化期 2~3日 本葉1葉期まで 昼間20~25℃ 夜間15~20℃ 表面が乾くまでかん水しない。
硬化期 10~14日 本葉1葉期以降 昼間20~25℃ 夜間10~15℃ 前半1~2日に1回 後半1日に1~2回

普及だより

平成20年8月11日 No.25
土浦地域農業改良普及センター
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話 029(822)7253
FAX 029(822)7370
URL: http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/tsuchiura/

ナシの産地活性化に向けた取り組み



▲推進会議で作成したポップ



▲収穫間近の幸水



▲株元マルチによる樹勢回復技術の検討

石岡市八郷地区のナシ産地を活性化しようと、平成一六年二月に「八郷梨経営研究会」が設立され、生産技術だけでなく、全国有数の産地にふさわしい先進的な取り組みや研究を行ってまいりました。

さらに平成一九年、産地の活性化に向けた課題解決に取り組むため、生産組織の代表者、市、JA、普及センターによる「八郷地区梨産地活性化推進会議」を設立し、産地診断や市場調査などを行い、「生産性の向上」「販売価格の安定」「経営の安定」の課題に整理し、課題解決に向けた対策と産地目標を設定した産地の方向性を示す「産地活性化ビジョン」を策定しました。そして平成二〇年は、ビジョン実現に向けた各々の行動計画を作成し、産地生産者、関係者が一体となった取り組みを始めました。

推進会議の設立により、生産者と関係機関が産地の現状や課題について共通理解を持ち、一丸となることができました。八郷梨産地のこれからの楽しみます。

家族経営協定を結んであなたも認定農業者に(共同申請)

従来の認定農業者は一家に一人でした。しかし、平成一五年から共同経営者であれば複数の者が農業経営改善計画の共同申請により、認定農業者になることが可能になりました。

○共同申請に必要な要件

- ①農業経営改善計画の認定申請を行う名義人が同一の世帯に属する者であること(農地法第二条第八項)
- ②家族経営協定等の取り決めが締結されており、その中で農業経営から生ずる収益が当該名義人の全てに帰属すること及び農業経営に関する基本的事項について当該名義人すべての合意により決定することが明確化されていること
- ③当該家族経営協定等の取り決めが遵守されていること

以上のことが確認された場合、共同申請が認められます。

○キーポイントは「家族経営協定」

共同申請を行う際、共同経営者としての位置づけを明確にするものが「家族経営協定」です。

家族経営協定とは、経営を担っている世帯員相互間のルール、取り決めを文書化したものです。

家族経営協定や共同申請を積極的に取り入れ、それぞれの意欲と能力が十分に発揮できる農業経営へと結びつけましょう。

「Eco農業茨城」とは

茨城県では、平成二〇年度から「Eco農業」の取り組みを推進しています。遊休農地の解消や平地林、里山の下草刈りなどの環境保全活動と化学農薬、化学肥料の使用量を地区慣行の五割以上削減した生産活動、土づくりの推進などの一体的な取り組みを支援することにより、美しい生産環境で生産された、消費者の求める安全で安心できる魅力ある農産物を「いばらきEco農産物」として積極的にアピールしていくものです。

○取り組み地区の認定

地区ぐるみでEco農業茨城への取り組みが必要となり、地区と市町村長との間でEco農業茨城協定を締結し、農業者ごとにEco農業茨城環境規範点検シートの提出が必要となります。

○掛かり増し経費への支援

化学農薬、化学肥料の使用量を地域慣行の五割以上削減した生産活動に対し、一〇アール当たり三千円から二万円の支援が受けられます(金額は作物によって異なります)。その条件は①Eco農業茨城協定締結地区に居住する農業者でEco農業環境規範提出者 ②生産調整達成者 ③Ecoファーマー認定者です。

農業経営士等新たに三名が認定

今年度新たに次の方々が茨城県知事から認定を受けました。

また、農業経営士の矢口光雄氏、青年農業士の坂本和彦氏、山内庄一路氏(共にかすみがうら市)が退任されました。

農業経営士

かすみがうら市 櫻井 栄氏
梨十レンコンの複合経営
土浦農協霞ヶ浦梨部会に所属し、部会全員でEcoファーマーを取得しています。



青年農業士

かすみがうら市 齋藤 豊広氏
カーネーション専作経営

かすみがうら市 塚本 和美氏
露地小菊を経営の柱とし、ハウスによる球根切花も経営に取り入れ、花き品目の周年出荷を行っています。品種情報や市場情報の収集を積極的に行い、有利販売に努めています。



平成21年度茨城県立農業大学校学生募集

2009年度から、新しい県立農業大学校(専修学校)がスタートします。大学への編入学の受験資格が得られます。

区分	学科名	募集人員	受験資格	修業年限	専攻コース
学 科	農 学 科	40名	高校等を卒業した者及び平成21年5月に卒業見込みの者	2年	普通作・露地野菜・梨樹
	畜産学科	10		2年	
	園芸学科	30		2年	施設野菜・花き
研 究 科	10	農業大学校卒又は短大卒等以上		2年	作物・園芸・畜産

■ 募集人員等

試験区分	願 書 受 付 期 間	試 験 日	選抜方法	
推薦入試(各学科)	平成20年10月2日(金)~10月17日(金)	平成20年10月27日(日)	小論文 口述試験 (09/09/09)	
一般入試(各学科)	前期	平成20年12月17日(金)~平成21年1月16日(金)	平成21年1月30日(金)	筆記試験 口述試験 (09/09/09)
	後期	平成21年2月9日(日)~平成21年2月27日(日)	平成21年3月6日(金)	
併 合 入 試	平成20年10月2日(金)~10月17日(金)	平成20年10月27日(日)	筆記試験 口述試験 (09/09/09)	

■ 問い合わせ先 〒311-3116 東茨城郡茨城町長岡 4070-186
茨城県立農業大学校 入試事務局 TEL.029-292-0010

■ 農大ホームページ <http://www.ibanodai.ac.jp/>

普及だより

平成21年1月20日 No.26
土浦地域農業改良普及センター
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話 029(822)7253
FAX 029(822)7370
URL: http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/tsuchiura/



▲▼ このような隙間が暖房効率を上げています。



▶▲ 研修会の様子

コスト削減に向けて

生産資材の高騰を乗り越え、花き栽培のより一層の経営充実・発展を図るために、管内の施設花き農家を対象に「土浦地域花き経営研究会」を開催しました。最初に生産資材費削減策の共通した方法や再生産価格について説明し、その後、実際の聞き取り調査より算出したバラやグラジオラスの再生産価格を示しました。

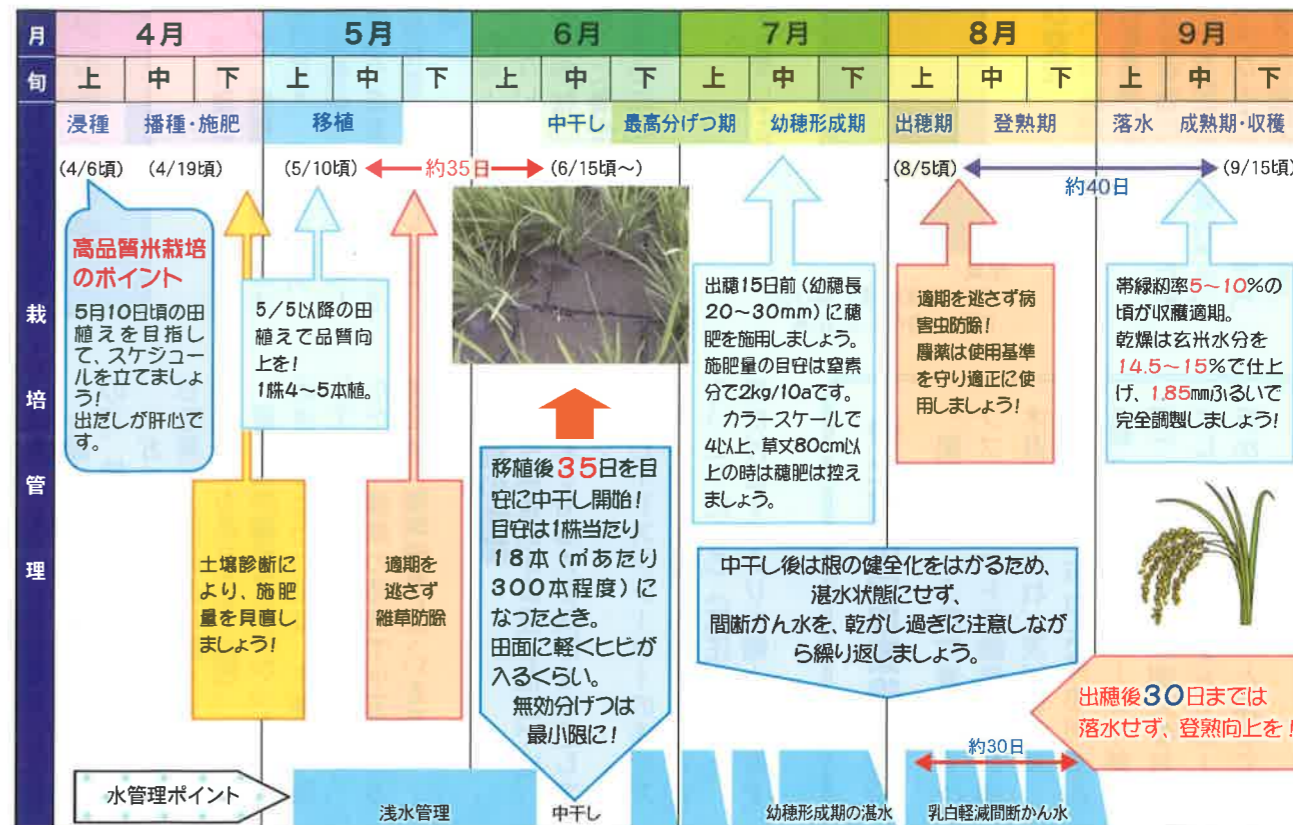
施設の保温技術については、実例を確認しながら循環扇の効果やサイドと天井ではどちらが多重被覆の効果が高いか等の検討をし、活発な意見交換となり、関心の高さがうかがえました。

最後にフラワーパーク内の温室を使って、農林水産省作成の施設園芸チェックシートにより、被覆の穴や隙間などを実際にチェックし、省エネ技術の実際を確認しました。

花き類の価格低迷が続く中、消費者に喜ばれる花づくりへの意識高揚と共に、花き農家の経営安定のためのコスト削減対策の重要性、必要性が十分に認識できた研修会となりました。

平成21年産 コシヒカリの栽培暦

大粒で高品質のコシヒカリ生産のため、下記の栽培暦に沿って準備を進めましょう！



認定農業者になろう

認定農業者とは、農業経営基盤強化促進法に基づき、農業でがんばっている農業者が立てた計画を市町村が認定し、その計画の実現に向けた農業者の取り組みを、関係機関・団体が連携して支援していくこととする制度です。

○認定されるメリット①
制度資金の無利子化
農業経営基盤強化資金（スーパーL資金）、認定農業者育成特別資金、農業近代化資金が、平成二二年三月三十一日まで貸し付け分について無利子となっています。コスト低減のための取り組みも無利子化の対象となりました。セーフティネット資金なども認定農業者には有利になっています。ご利用にあたっては、表にある相談窓口にご相談下さい。

○認定されるメリット②
元気アップチャレンジ事業の対象に
生産集団等の創意工夫ある提案に支援を行う「いばらき農業元気アップチャレンジ事業」について、平成二二年度より、認定農業者個人も対象となります。

表. 認定農業者に有利な制度資金の例

資金の名称	対象	利率	融資率	相談窓口
農業経営基盤強化資金（スーパーL）	認定農業者	0%	100%	(株)日本政策金融公庫(旧 農林漁業金融公庫)
認定農業者育成特別資金	認定農業者で農業協同組合員	0%	100%	農業協同組合
近代化資金	認定農業者	0%	100%	農業協同組合
	その他の担い手	1.7%	80%	農業協同組合

人も対象となります。農業者が自らの課題を洗い出し解決に取り組む「いばらき農業元気アップ作戦」による、消費者ニーズに応じた産地づくり等の新たな提案について、標準事業費一六〇万円、補助率は、元気アップ集団1/2、認定農業者1/3で支援します。詳細については、市の農政担当窓口にお問い合わせ下さい。



土壌診断により適正な施肥を実施しましょう

肥料成分の蓄積

今、多くの農地では、作物が吸収・利用する以上の施肥が長期にわたって繰り返されているケースがあります。そのような場合は相当量の肥料成分が土壌中に蓄積している可能性があります。

過剰施肥の可能性

また、土づくりのために施用するたい肥にも一定の肥料成分が含まれています。たい肥を連年施用したり、この成分量を考えずに施肥基準に基づいて施肥したりすると過剰となってしまう、肥料コストだけでなく環境負荷も増大させる要因にもなります。

土壌診断により適正な施肥を

ほ場の状態を把握するため土壌診断を実施し、その結果に基づいた施肥を行いましょう。普及センターまでお問い合わせ下さい。※可給態窒素は連年水田、水稲↓小麦、輪換畑↓水稲(輪換初↓二年目)の場合に用いられます。

「たい肥ナビ」を活用してコスト削減を

たい肥の適正施用のために

家畜ふんたい肥は土づくりには有効な有機質資材です。しかし上記にもあるとおり、過剰に投入してしまうと塩類の集積等、ほ場の状態が悪くなる可能性や環境への負荷が懸念されます。

たい肥を正しく活用するには、適正量の施用が重要です。

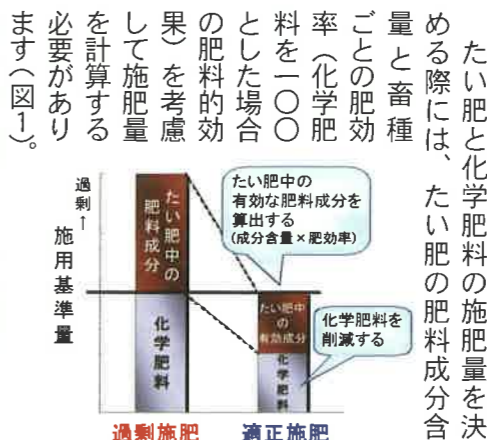


図1 たい肥施用時の適正施肥法

「たい肥ナビ」の紹介

「たい肥ナビ」は、Excel2003を使った施肥設計システムで、茨城県畜産センターのホームページから無料でダウンロードできます。HPアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nour/in/chikusei/Welcom.html

「たい肥ナビ」では、たい肥と作物を選ぶだけで、茨城県の栽培基準に基づいた10aあたりのたい肥と化学肥料の施用量が計算されます。

「たい肥ナビ」での肥効率と代替率の上

限は、表1のとおり設定されています。

Table 1: Basic Fertilization Design (施肥設計の基本). Columns: Item (項目), Nitrogen (窒素), Phosphorus (リン酸), Potassium (カリ). Rows: Fertilization Efficiency (肥効率) for various types of manure (牛ふんたい肥, etc.), and Replacement Rate Upper Limit (代替率の上限).

今年度から新たに水稲版も公開されました。水稲版では、乾田・湿田、地力窒素、施肥体系等を入力し、たい肥を選択して使用します。(水稲版は牛ふんたい肥のみ対応)

たい肥の肥効率は、土壌の状態や気象条件・連年数・栽培期間等によって変わります。「たい肥ナビ」の試算結果を参考に、「たい肥ナビ」の生育状況を確認しながら追肥量を調整してください。「たい肥ナビ」を利用し、ほ場の健康を保つと共に、地域のたい肥を有効利用して肥料代を削減しましょう！

まちからむらから

土浦市 土浦市都市と農村の交流事業検討委員会

土浦市では、都市近郊という立地条件や自然環境・地域資源を活かした地域の活性化を目的に、都市と農村の交流事業のあり方を検討するための委員会を設置しました。(設置期間二年三月まで)

委員会では、都市住民のグリーンツーリズム志向を分析し、地域・人的資源を活用した体験型交流事業等のあり方や交流の受け皿としての対応方法を検討しています。

これまでは、小学生のいる家族層を主な対象として捉え、土浦市らしい交流事業を展開していく方向で検討を重ねました。

中間報告をとりまとめた後は、市民に公表、パブリックコメントを募集し、その意見を踏まえて最終報告書を取りまとめ、市長に提案することになっています。

かすみがうら市 遊休農地対策にそば導入

かすみがうら市産そば推進協議会は生産者、消費者、市、JA、普及センターで構成され、遊休農地対策の一環として、試験的にそば栽培に取り組んでいます。本年は連作による地力の低下を防ぐため、豚ふんたい肥を施用した実証ほを設置しました。昨年に比べ草丈は低いものの、

ナシの栽培管理

着果管理

満開約一カ月後までに増えた細胞数によって、収穫時の果実肥大に影響を受けます。一方、この間、樹は主に貯蔵養分によって生育します。貯蔵養分を有効に利用するため、着果管理を徹底しましょう。

花芽整理

今年は、昨年と比較してえき花芽の着生が少ない傾向にあります。骨格枝上の短果枝、養分転換期頃に伸びた部分に着生した花芽(写真)などを中心に花芽を整理しておきましょう。



写真 養分転換期頃に伸びた部分に着生した花芽

摘花及び交配

交配前に、樹勢が低下している樹から摘花を実施します。貯蔵養分を有効に利用するためには梵天による交配が効果的です。ラプタッチなどを利用する場合、着果数が多くなる傾向にあります。

黒星病の防除

昨年黒星病が多発した園では、例年よりも春先の防除を徹底しましょう。

摘果

一般に、下芽は大きくならないので、摘果(花)します。一方で、下芽でも、えき花芽なら短果枝と同程度に肥大するというデータもあります(図)。

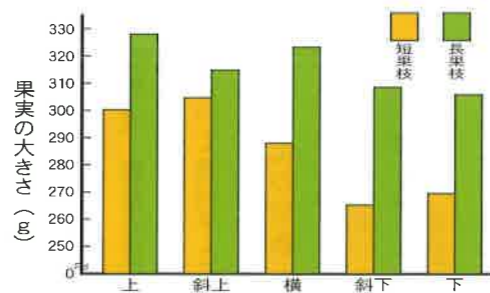


図 幸水の果そうの方向と果実の大きさ

長果枝は横～上、短果枝は斜め上～上が大玉になる。ただし、長果枝の場合、下～斜め下でも短果枝より大玉になる可能性がある。

る農薬の量が多くなって無駄になるだけでなく、ドリフトも問題になります(などして、芽基部に十分薬剤が付着するようにしてかかリムラがでないような防除を行いましょう。

土浦市の農業後継者が県代表として意見発表

関東ブロック農村青少年クラブプロジェクト実績発表会が栃木県で開催され、茨城県代表として、土浦市の大塚忠司さん(霞ヶ浦有機センター青年部所属)が、意見発表の部に参加しました。「人生を変えたものゝ挫折からの再出発」と題しての

堂々とした発表は聴衆をひきつけてました。

関東ブロック農村青年クラブ



普及だより

平成21年8月18日 No.27
土浦農業改良普及事業推進協議会
茨城県南農林事務所経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦合同庁舎第二分庁舎3階
土浦市真鍋5-17-26
電話 029(822)8517
FAX 029(822)7370
URL: <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html>

女性農業者は元気です。



上左：生産技術の学習会、上右：食農教育活動、下左：起業活動、下右：女性組織による学習会

女性が農業就業人口の過半数を占め、女性の活躍なくして農業振興や地域社会の活性化は図れないといわれる中、女性達は、本当に元気に活躍しています。そんな女性達は、農業生産技術等の基本を学ぶ農村女性大学や、食農教育を通して将来の後継者確保を行う「女性農業士会」活動地域農業の活性化を図る農村女性組織、地域の特産物や地場産物に付加価値を付け、地産地消の一役を担う女性起業等に積極的に関わっています。

農業者が計画性をもって働きたいのある魅力的な農業経営を確立するための家族経営協定にも、女性がリード役となって締結を進めてきました。

消費者ニーズに対応したものがづくりが求められる時代であり、女性が元気なところは地域も元気であると言われていきます。

土浦地域では、生産者であり最も身近な消費者でもある女性農業者の感性や能力が、農業生産や地域づくりに活かされています。

みんなの力で農業改革を進めよう

環境にやさしい農業に
取り組ましましょう。

エコファーマーとは

近年、地球温暖化や湖沼・地下水の水質汚染など環境の悪化が大きな問題となっており、農業においても環境にやさしく持続的な農法への転換が求められています。

平成一一年度制定された「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」において、エコファーマーの制度が出来ました。

「エコファーマー」は「土づくり」、「化学肥料低減」、「化学農薬低減」の三つの技術を一体的に取組むことにより知事の認定を受けた、環境にやさしい農業を担う農業者の愛称です。

現在、県内では約六、八五七人（平成二二年三月現在）がエコファーマーに認定されています。さらに多くの人に加わっていただきたいと考えています。

作物ごとに前記の技術の中から一種類以上の具体的な技術を選んで計画書を作成し、農林事務所経営・普及部門（地域農業改良普及センター）に提出してください。計画書が認められるとエコファーマーとして認定されます。

○エコファーマーマークについて
「ec」の文字と「地球」・「8」



をモチーフに、持続性の高い農業生産方式に取り組み農業者の積極的な姿勢と広がりを実現しています。

「笑顔」は地球環境へのやさしさや農産物の「安心感」、「親しみやすさ」を表しています。

農業経営士 女性農業士の 紹介

今年度新たに次の方々が茨城県知事から認定を受けました。

また、農業経営士の宮下茂司氏、鈴木昇氏、飯田敬市氏、外塚孝雄氏、女性農業士の櫻井裕子氏、川上泰子氏、青年農業士の坂川伸一氏、市川浩文氏、幕内秀文氏が退任されました。

農業経営士

土浦市 大関忠氏
レンコン+野菜



JA土浦都和レンコン部会部長を務めています。レンコンは、早生、中

生、晩生種を作付けして、長期出荷できるようにしています。また、ハウスで、コマツナ、ホウレンソウを周年出荷し、所得の安定と、労力の分散を図っています。

石岡市 原田通弘氏
施設キュウリ+稲作



JAひたち野キュウリ部に所属し、生産履歴管理責任者として安全安心なキュウリ生産を推進しています。良質な自家堆肥による土づくりや、養液土耕栽培による効率的な施肥管理に取り組んでいます。

かすみがうら市 小林賢次氏
花木+苗木



コニファーを中心に造園用の花木等の苗木を生産しています。お客様のニーズに応えられるように様々な大きさ、品種揃えています。単に花木を販売するだけでなく、施工先に合わせた庭木や花壇の配置等も提案しています。

女性農業士

土浦市 斉藤礼子氏
施設花き



家族経営協定を締結し、役割分担を明確にして、本人夫婦はカーネーションを、親夫婦は雪柳を生産から販売までそれぞれ責任を持って取り組んでいます。将来は、直売活動を通じて、地域活動にも貢献していきたいと考えています。

平成22年度茨城県立農業大学校学生募集

2009年度から、専修学校となり大学への編入学の受験資格が得られます。

茨城県立農業大学校は、幅広い視野と豊かな人間性の形成を図るとともに、時代に即応できる経営感覚に優れた農業者及び農村社会の担い手、農村地域において指導的役割を果たし得るにふさわしい者の教育を目標としています。

■入学定員■					
学科	科名	入学定員	主な対象	専攻コース	
農学科	農学科	40名	高等学校等を卒業した者	2年	普通作・露地野菜・果樹
	畜産学科	10	又は平成22年3月に卒業若しくは修了見込みの者	2年	施設野菜・花き
	園芸学科	30		2年	
研究科		10	農業大学校卒又は短期大学等卒以上若しくは卒業見込みの者	2年	作物・園芸・畜産

◎ 詳しくは入試事務局にお問い合わせください。
■ お問い合わせ先 〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡4070-186
《入試事務局》 TEL 029-292-0010
■ 農大ホームページ <http://www.ibanodai.ac.jp/>

就農のご相談は普及センターまで

普及だより

平成22年8月10日 No.29
茨城県南農林事務所経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第二分庁舎3階
土浦市真鍋5-17-26
電話 029-822-8517
FAX 029-822-7370
URL: <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html>

ナシ農家の女性が元気です!



「今年も剪定を夢中になってやっています!」今年の三月の農村女性大学修了式での言葉です。
農村女性大学OG十二名は、平成二十年から二年間、ナシ生産や経営の基礎となる知識や技術の習得に努めてきました。講座修了後も、「講座で学んだことを一本の樹の管理を通して実践しよう」と、今年も継続して試験樹一本の管理と学習会を開催しています。
五月には、樹相診断をして収量目標を決めました。みんなで立てた目標と実際の収量の差を、来年以降の樹相診断や管理に活かしていきたいと考えています。七月には優良事例園を視察研修するなど、新しい技術の取得や見聞を広げること大変意欲的です。
また、みんなでメールアドレスを交換し合い、試験樹の管理状況を発信したり、病害虫や災害の情報、毎日の管理の中で生じた疑問等を、気軽に情報交換しています。
ナシ生産は厳しい状況が続いていますが、これまで培ってきた梨農家の技術に加え、元気で勉強熱心な女性達の活躍が、梨産地を活性化してくれるのではないかと、今後の活躍がますます期待されます。

みんなの力で農業改革を進めよう

どんぶり勘定から脱却しよう!

六月下旬、かすみがうら市で、「土浦地域経営改善フォーラム」を開催しました。



農山村地域経済研究所の楠本雅弘所長より「家族で取り組む健全経営―どんぶり勘定からの脱却とみんなが主役のパートナー農場」と題して講演いただきました。
「農業経営と生活が未分離で、減価償却費の積み立てをせず、家計費が農業所得を食いつぶしている農家が多い。農業収支は月次決算を行うべき。毎月家族経営会議を開催し、先月の実績報告と今月の計画を確認し、目標に向かって家族全員が経営にかかわる『パートナー農場』を実践していけば、後継者が残り経営は持続できる」と強調しました。
また、JA土浦パソコン研究会の小林芳行会長が「私の農業とパソコン」と題して、平成二年から

土浦地域就農支援協議会の活動

本協議会は土浦地域管内の市、農協、農業委員会、就農アドバイザー、普及センターで構成され、農業の新たな担い手の就農支援、青年農業者の確保育成を円滑に行うための活動をしています。
主な活動内容は、月一回の就農相談会の開催、就農希望者の情報交換並びに、新規就農支援の優良事例研修などです。
就農相談会には、今年の四月から七月までに九名の方が相談にいられました。

相談内容では、①農業に関する研修先 ②農地の確保について ③農業法人等への就職についてなどが多くなっています。
新規参入を始め、新規に就農を希望される方々のあらゆる相談を就農支援協議会のメンバーがお受けしています。
また、地域で新たに就農された方がいましたら、普及センターまでお知らせ下さい。

農業経営士の紹介

今年度新たに土浦市の酒井さんが茨城県知事から認定を受けました。

また、農業経営士の栗原仁氏、青年農業士の川井孝文氏、外塚正義氏が退任されました。

農業経営士
土浦市 酒井 攻氏
花き(枝物)



JA土浦花き部会の青年部長を務めており、生産品目は、アカメヤナギを中心に雲竜ヤナギ、石化ヤナギ等のヤナギ類を専作で周年出荷しています。

いばらき営農塾の開催

茨城県立農業大学校では、県内で農業を始めようとする方や新たに農業を始めようとする方で本格的な農業経営を目指す方を対象に、いばらき営農塾(営農支援研修)を開催しています。

今後の開校予定としては、坂東市の園芸部で、野菜園芸を中心に基礎知識と技術を学ぶBコース(概ね四十五歳までの方が対象)が十一月十九日から三月八日の火曜日と金曜日に開講されます。申し込み締め切りは十月十五日です。希望される方は、普及センターまでご連絡ください。

平成23年度茨城県立農業大学校学生募集

専修学校であり大学への編入学の受験資格が得られます。

茨城県立農業大学校は、幅広い視野と豊かな人間性の形成を図るとともに、時代に即応できる経営感覚に優れた農業者及び農村社会の担い手、農村地域において指導的役割を果たし得るにふさわしい者の教育を目標としています。

科名	入学定員	主な対象	修業年限	専攻コース
学 科	農学科	高等学校等を卒業した者及び平成23年3月に卒業見込みの者	2年	普通作露地野菜果樹
	畜産学科	同上	2年	
	園芸学科	同上	2年	施設野菜花き
研 究 科	10人	農業大学校卒業後、短大等以上若しくは平成23年3月に卒業見込みの者	2年	作物園芸畜産

◎詳しくは入試事務局にお問い合わせください。
■問い合わせ先
〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 4070-186
《入試事務局》TEL 029-292-0010
■農大ホームページ <http://www.ibanodai.ac.jp/>



高品質コシヒカリ
生産のための
管理のポイント

【適期収穫】

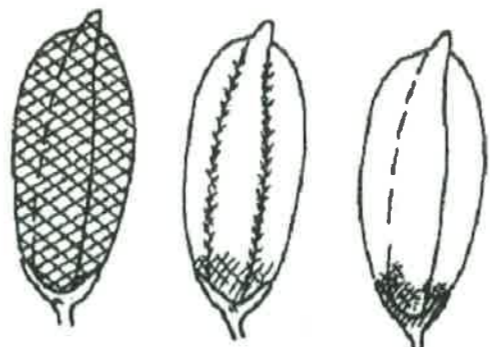
早刈りでは、青米や死米が多く、収量も減少します。刈り遅れは、収穫口スが増えるばかりでなく、胴割米や着色米等により、品質が低下します。収量と品質を確保するため、適期に収穫しましょう。コシヒカリの収穫適期の目安は、穂首近くの緑色を帯びた籾（帯緑籾）が一〇〇程度るときから五日間、出穂四〇〇四五日後です。籾の状態を判定基準の写真と比較する『水稻「コシヒカリ」適期収穫チャート』を利用することにより、適期を簡易かつ正確に判定・予測できます。利用希望の方は、普及



▲帯緑籾別基準（黒色カルトン上）

センターへお知らせください。
【適正な乾燥・調製】

急激な乾燥によって助長される胴割米の発生を軽減するため、籾水分が高い場合や、ばらつきが大きい場合は、「二段乾燥法」に取り組みましょう。一段目では、籾水分一八％程度で乾燥機を止め、一時（一日以上）貯留します。これにより、整粒と未熟粒の水分差が少なくなり、その後、二段目の再乾燥により、籾水分を一五％に仕上げます。籾すりは、放冷し、穀温を外気温程度まで下げてから行います。放冷が不足していると、肌ずれ米、胴割米、碎米が多くなります。調製は、一・八五mm以上の篩目を用い、小さな粒を十分に選別できるように適切な流量で行います。



▲帯緑籾の模式図【斜線部は緑色を帯びている部位（帯緑部）】

【健全な土づくり】

翌年の栽培に備え、収穫後は土づくりに努めましょう。稲わらは、収穫直後の気温が高い時期にすき込みます。このとき、浅めに耕起することにより、分解の促進を図ります。たい肥を利用する場合は、事前に普及センターで土壌の可給態窒素量を測定した後、『たい肥ナビ！水稻版』を用い、適正なたい肥の施用量及び基肥窒素の施用量を確認しましょう。たい肥は完熟したものを用い、施用は、十一月中旬頃までに行いましょう。

ナシの黒星病の秋期防除

近年、黒星病の発生が多くなっています。翌年の発生を抑えるために秋期防除を徹底しましょう。

【黒星病対策】

黒星病の伝染源には、落葉とりん片病斑（後に芽基部病斑となる）とがあり、それぞれに対しての対策が重要です。

①落葉からの感染

黒星病は、秋季に葉の裏に薄い黒色の病斑（秋型病斑）を生じます。秋型病斑を生じた落葉上では、三月中旬頃から子の胞子が形成され、五月下旬頃まで降雨により飛散して伝染源となります。

対策として、落葉を集めて園外に持ち出し処理するか、ロータリーをかけて、落葉を粉碎してうないこみます。

②りん片病斑からの感染

九月十一月の降雨により秋型病斑からりん片への感染が盛んになり、翌年の伝染源になります。

対策として、収穫直後と十月に薬剤散布を行います。徒長枝に薬剤が十分かかるようにします。多発した園や雨が長く続く時は、十一月月上旬まで防除を行ってください。

【薬剤散布の留意点】

農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し、正しく使用してください。薬剤使用回数のカウントは収穫後から開始されます。また、周辺への飛散に十分注意して行ってください。

キユウリうどんこ病
防除のポイント

昨年、キュウリにうどんこ病の発生が多く見られました。今年もうどんこ病には十分注意して下さい。

【ていねいな葉裏への薬剤散布】

うどんこ病の防除薬剤は、葉裏にもかかるようにていねいに散布することが大切です。葉裏に

も達する、いわゆる浸透性のある殺菌剤が有効ですが、現在農薬登録されている浸透性がある薬剤の一部に対しては、耐性菌が非常に発生しやすいという問題があります。そのため、ローション散布に心掛けましょう。

【早期の下葉の除去】

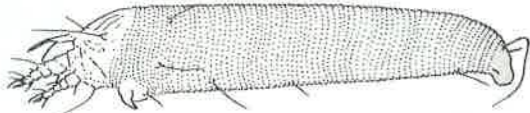
葉裏、特に下葉の裏面にきれいに薬剤を散布することは困難です。特に昨年のような多発年には、葉表はきれいなのに薬剤が十分にかからなかった葉裏はうどんこ病で真っ白という場面をよく見かけました。下葉の葉裏はうどんこ病菌の

☆ダニの話しあれこれ☆

作物を加害するダニの一つに、フシダニがあります。フシダニは、植物に「節」をつくることから名づけられました。しかし、「節」をつくるフシダニは一部であり、他にハモグリダニ、サビダニ等もフシダニの仲間です。体長は最大で約〇・三mmと、大変小さなダニです。フシダニ類は、植物の根を除くあらゆる部位を生活空間として利用しており、その結果として、ロゼット、さび症状、銀白化、褐変、斑紋、退緑、えそ、黄化、萎縮、捲葉、ひぶくれ、虫こぶ、毛状化、苔状化、芽の肥大、てんく巣等、様々な被害症状を引き起こします。また、それらの中には、ウイルスやファイトプラズマ等の植物病原体による症状に類似するものもあり、区別しにくい場合もあります。フシダニ類の防除は殺ダニ剤が主体ですが、硫黄を含む殺菌剤の中にも有効な薬剤があります。そのため、硫黄を含む殺菌剤が他の殺菌剤に置き換わることに、今まで抑えられていたフシダニが突然問題となること考えられます。



▲薬剤を噴霧した苗に耐性菌(左)または感受性菌(右)を接種した場合



▲フシダニの体 (Keifer, 1952より抜粋)

温床になりがちです。『いくら防除してもうどんこ病が減らない』、そのような事態を避けるため、必要のない下葉の除去を早めに行いましょう。

まちからむらから

土浦市

日本蕎麦協会会長賞を受賞

土浦「常陸秋そば」そばオーナー事業を行っている市の農産物オーナー推進協議会（事務局農業公社）委員の小松崎忠夫氏が、三月十一日に二〇〇九年度全国そば優良生産表彰で日本蕎麦協会会長賞を受賞しました。自宅付近の畑に圃場を集約し機械化作業体系で二・三haを全作業を一人で実施しており、その作業の省力化が高く評価されたの受賞となりました。

小松崎氏は第二〇回茨城県そば共進会でも、優秀賞（茨城県議会長賞）を受賞しました。共に参加した柳田哲男氏も優良賞（茨城県農協中央会会長賞）を受賞しており、生産された「常陸秋そば」は「小町の館」で提供されています。

かすみがうら市

かすみがうら市4Hクラブの活躍

かすみがうら市4Hクラブでは、地域社会に貢献するため、様々な活動を行っています。毎年、新生の開拓道路沿いの花壇を管理し、環境の美化に一役買っていることは、その好例です。昨年から新たに、地域課題の一

地域農業の担い手としてはもとより、地域社会に根ざした組織として、めざましい活躍をみせる若者たちです。

石岡市

エコファーマーの取得で環境に配慮した農業推進

ひたち野農協石岡梨部会とハウス部会では、環境に配慮した農業を推進していくために、部会をあげてエコファーマーの取得に向けて講習会や説明会を行いました。

石岡梨部会では現在、十四名がエコファーマーに認定されていますが、今回三十七名が申請し、部会員全員の認定を目指します。また、ハウス部会でも、二十二名全員が申請することになりました。

エコファーマーの取得により、生産者自身、環境に配慮した栽培を行う意識が向上するとともに、消費者に対し安全・安心な農産物をアピールしていく良い機会となり、今後の産地の発展が期待されます。

普及だより

平成22年12月21日 No.30
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話(直通)029(822)7242
(FAX)029(822)7370

レンコンにおけるアブラムシの防除

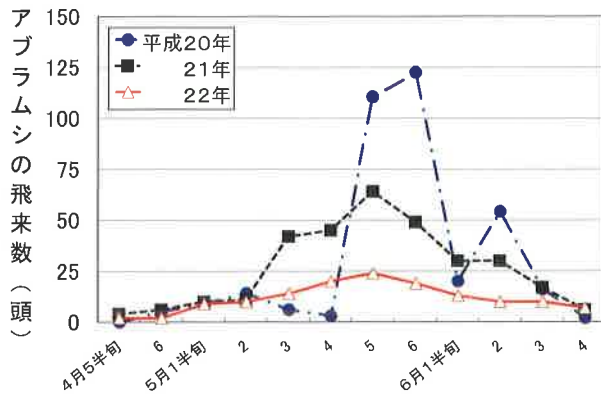
レンコンを加害するアブラムシ(クワイイクビレアブラムシ)は、ウメなどの樹上で卵の状態越冬し、春先に有翅虫(羽の生えた形態)となり、レンコンほ場に飛来します。その後、立葉等に寄生して羽の無い形態となり増殖します。

【アブラムシの発生時期】

アブラムシの適期防除に活用するため、普及センターでは平成20年より有翅虫の発生状況を調査しました。平成20年は五月下旬に飛来のピークを迎えました。また、平成21年は、20年より平均気温が高く推移し、五月中旬から飛来が急増しました。平成22年は低温により飛来は少なかつたものの、ピークは五月下旬でした。これら結果と、土浦気象台の平均気温を考慮すると、例年の飛来数は五月中下旬にピークがあると予測されます。

【防除について】

そのため、アブラムシの防除は五月中下旬頃に行うことが重要です。アブラムシは一度増殖すると防除が困難となり、結果的に防除回数の増加につながります。五月中下旬は、出荷と植付けが重なる多忙な時期になります。早めの防除を心がけましょう。なお、粒剤の場合、効果の発現には数日を要するので、早めの処理を行います。



▲アブラムシの飛来数の推移

冬も油断しないで!! 冬期に発生するコギクの病害虫

近年、親株や秋植えトンネル栽培のコギクでは、冬期の菌核病やアザミウマの発生により、品質低下や枯死する事例が多くなっています。冬でも気を抜かず、しっかりと観察して、病害虫の発生を確認したら速やかに防除しましょう。

○菌核病(図1)

前年に形成されたネズミの糞のような菌核が土壤中越冬し伝染源になるので十分注意して下さい。発生を確認したら、発病株は抜き取り、残渣を残さないようにしてから薬剤防除して下さい。

○アザミウマ類(図2)

冬期でも観察をしっかりと行い、一ヶ月に一回程度は定期的な防除をしましょう。特に、親株や育苗時での徹底防除を心がけて下さい。

○アザミウマ類(図2)

耐寒性が強いいため、親株床や雑草の中で越冬し、翌春の発生源となります。また、秋植えトンネル栽培では、トンネル内で発生すると、せどまりになってしまうこともあります。発生を確認したら速やかに防除して下さい。



図1



図2

ナシの安定生産に向けて

近年、温暖化の影響でナシ生産が不安定です。着果管理、早期展葉、早期肥大管理により一層の対策を実施しましょう。

○防霜対策

開花前に多目的防災網を展張します。ただし、サイドは開放しておきます。○、五〜一℃程度の昇温効果があります。

草生栽培は、土からの放射熱を抑えて霜害を助長するので、草刈りを励行しましょう。

○着果管理

摘らいや早期摘果により貯蔵養分の浪費を防ぐことが大玉生産につながります。

短果枝の下芽や小さい花芽など、余分な花芽を摘らい時期を待たずにせん除します。

結実させない部位（主枝・亜主

枝・下向きの花芽）の摘らいは早めに行い、貯蔵養分の浪費を防ぐことが大切です。

○人工受粉

花粉は樹勢の強い樹から採取したほうが花粉量が多く、発芽率も高くなります。開花直前の風船状のものを採取します。

輸入花粉は乾燥工程が徹底されているため、吸湿が必要で、説明書に従って吸湿作業を行います。天候不順時には、受粉回数を多くします。また、希釈倍数を低くします。花粉は十分量確保しましょう。

○早期展葉

平成二二年は満開後一〇〇日前後で肥大が鈍りました。早期肥大を図るためには、早期に展葉し、早期に新梢が停止することが重要です。展葉の早い予備枝を多く配置するようにします。

高品質米は種子の準備から

【準備すべき購入種子量は】

必要な購入種子の量は、一箱当たり一六〇gで一〇a当たり一八〜二〇枚を田植えすると、一〇a当たりでは二・九〜三・二kgとなります。種子の量は余裕をもって、早めに準備しましょう。

【採種は産消毒種子は浸種だけで使用できます】

・浸種は防除効果を高めるために種子一kgに水を四リットルとして、水を入れてから三日間はかき混ぜないようにしましょう。

・一回目の水の交換は、四日後に静かに行いましょう。

・二回目からは一〜二日置きに水を交換しましょう。

・浸種の期間は水温が一〇℃で一〇〜一二日間で、積算温度では一〇〇〜一二〇℃が目安になります

が、九℃以下の日は積算しないで下さい。また、一六℃以上の水温では発芽が不ぞろいになりやすいので気をつけましょう。

【催芽を必ずおこないましょう】

水温を二八〜三〇℃に保ち一五〜二〇時間の加温が目安です。必ず、八割以上がハト胸状態になったことを確認してから播種してください。左の写真を参考に、芽の伸びすぎにも注意しましょう。

☆ダニの話あれこれ☆

ミツユビナミハダニは、平成一三年に大阪及び京都で発見され、新種記載されたナス科に特化した種です。その後、兵庫、東京、福岡、鹿児島、沖縄、高知でも分布が確認されています。

これまでの研究から、本種が寄生できる植物はナス科に限られているもの、他のハダニ類と比べて非常に高い増殖力をもっていることがわかってきます。さらに、現在現場で使われている一八種の薬剤の本種に対する効果を検討した結果、いずれの薬剤も高い効果を示しました。このことから、本種が大きな問題となっていないのは、サビダニ等の防除薬剤によって同時防除されているためと考えられています。



▲ミツユビナミハダニ (asahi.com 平成22年10月21日付より抜粋)



浸種し催芽前の籾の状態 → 催芽(28〜30℃、15〜20時間) → ハト胸状態の籾